

第3期第9回 帯広市産業振興会議 議事要旨

日時：平成26年10月6日（月）18:00～

場所：帯広市役所10階 第5B会議室

I. 開 会

会長欠席により、松本副会長による議事進行となった。

II. 協 議

■帯広市産業振興ビジョン見直し（たたき台）について
（事務局）

資料に基づき事務局より説明

（副会長）

事務局からの説明を受け、見直しの内容について意見をいただきたい。

（委員）

雇用の拡大確保が経営基盤強化のなかで触れられているが、ビジョンの全体にかかるものと捉えていいか。部会のなかでは、もう少し大きな視点で、産業の活性化のような部分で論ぜられると思っていた。

どの部分で雇用の確保拡大を捉えていくか、今一度確認したい。雇用の確保というところがそれぞれの施策とつながって、強調されるといった感じが全体を通じてあったと認識している。

（委員）

新旧対照表の5ページに「商店街」という記述があるが、部会においては商店街や個店を含めた「商業」という大きな捉え方をすべきという議論になったが、この点についてはどうか。基本施策にも商業と記述されている。

「商店街」ではなく、「商業」の活性化と記述してはどうか。

（委員）

自ら考えるという点が大事なので、その点を大事にしてほしい。

（事務局）

いただいた意見を元に修正案を次回お示しする。

（委員）

形はまとまっているが、ニュアンスが違っていると感じる部分がある。

論点3-1に関する記述で、「つながりを活かした」という表現が大事なポイントと感じている。十勝をまるごと売るという考えのもと発信していくとした場合、ネットを有効に活用し十勝をすべて調べられるようにする取り組みも大事だが、これからは十勝の本当の魅力を伝えるような理念的なメッセージが必要。十勝に住んでいる人はこんなに十勝が好きなんだということが伝えられるような活動が必要。

情報の量だけではなく中身も大事で、発信している人の気持ちを代弁するような記述が入ってほしい。

(委員)

最近では雇用の問題が特に大きな課題になっている。こういう時期に見直すビジョンにおいて、雇用の部分には強調が必要と感じる。ビジョンの基本理念的な部分に入るのかなと感じる。

商店街の記述については、商業という大きな括りで記載が好ましいと感じる。

(委員)

人材部会に関しては新たな項目が増設されており、詳しく書き込まれている。

対応方向1-③「商店街や個店の活性化」において、商店街については行政のかかわり方が難しいのかなと感じている。活性化のために何をするのかとなると、交流人口を増やす、定住者を増やす、中心市街地の再開発など色々あると思うが、「自ら考えて進められるように」となったときに、少し具体的な記述があってもいいのではと感じる。

18ページの観光の部分について、食も十勝の売りではあるが、外国人観光客の目から見ると、温泉やウィンタースポーツ、アクティビティなどが大事であり、食だけではアピールしきれないのではと感じる。農業とか食に極端に寄り過ぎないほうがいいのではないか。浦幌など民間で色々な取り組みをしているが、農業の良さを刷り込むような内容に寄り過ぎていると感じる。もう少し総合的にやってもいいのでは。

(委員)

商業の部分をもう少し具体的に記述したほうがいいのでは、というご意見があったが、一つの具体的なものとしては「商店街振興組合」限定した部分を削除するか、「新たな集客策やサービスの向上を図るために行うものについて支援する」といったような記述があるべきということか。

部会の中の議論でもあったが、交流人口を増やした際に、受け入れ側のサービスの質が低いと集客が継続しないという議論があった。商業全体として、集客に連動してサービスの質の向上など全体的にレベルアップする必要があると感じる。質の向上といった新たなチャレンジを支援するという内容を反映する、ということではどうか。

(事務局)

持ち帰り、修正の方向で整理する。

(委員)

8 ページ人材の関係で、UI ターン者の確保促進と記載されているが、U ターンと I ターンでは確保の仕方等が変わってくると思うので、その辺のことを付け加えたほうがいいのではないかと。

(事務局)

記述を見直し修正する。

■協議 2 論点 4 について

事務局より、資料に基づき説明があった。

(事務局)

今後新たな企業を誘致するために、企業立地に関する優遇措置について、何かアイデアがあればいただきたい。

(事務局)

他の自治体でも、大型の補助金を用意したが、誘致してすぐに撤退していった例がある。他都市との金銭による競争が限界に来ているのではと感じている。

初期投資の面では補助制度は有効とは思いますが、補助金に限らず、企業の立場から、また他の企業とのお付き合いのなかでアイデアがあれば、現行制度への感想も含めてお聞きしたい。

(委員)

特定事業所であれば、立地する場所はどこでもいいのか。

(事務局)

都市計画区域内であればいい。川西地区のインターあたりまでが都市計画区域。

(委員)

特定事業所を見ていると IT 系が多いが、あまり大きな施設は要らないと感じる。

こういった業種で開業される方が年間何人かいるが、あまり投資額や雇用人数は大きくなく、現行制度ではあまり利用されないのではないかと。そもそも情報があまり知られていない。

また、特定の業種が使いやすいように要件を緩和すると、他との差別を感じる。誘致を強化する業種、方向性といった市としての考えがあるのか気になる。

(事務局)

この制度が作られた時期には、情報産業が誘致の花形だったという背景がある。賃貸などの空きスペースを使うより、投資をしてちゃんと税金が戻ってくるような企業を誘致したいという考えがあったと思われる。現在ではこの規模の起業は難しいと思われる。

要件を緩和した際には、他業種とのバランスは考えなければいけない。

(委員)

厚生労働省の雇用関係の補助金が小さくなっている。また、地域が限られており、帯広は対象地域外になっている。条件を絞って雇用関係の補助金を作るという方法もあるかもしれない。

(委員)

この問題は以前から議論になっていた。企業立地の補助を域内の企業に向けるのか、域外に向けるのか。大企業を誘致した際の失敗例があるなかで、どういう考えでこの補助を行っていくのか。幸い帯広では大企業誘致による大きな失敗は無いが、現実には外から来ることが見込めない状況のなかで、地元の企業に対してこの制度を活用していくべきでは。その視点で見直すことはいいと思う。

明らかに時代にそぐわないものもある。固定資産税の免除も含めて、補助してもほとんど地域に税金が落ちないという例もあるなかで、どういうものが有効なのか、見直しが必要。

(委員)

工場の新設増設に関する補助制度は知らなかった。年間何件程度使われているか。申請から交付まではどの程度の期間が必要か。

(事務局)

雇用を問わない固定資産税の免除のみの事例を含めると、年間5～6件ある。外部企業よりも地域に根付いた企業に対する補助が多い。

ビジョンでも内発的振興と外発的振興を目的としているなかで、市内企業のみ、もしくは域外企業のみ、といった制度ではなく、両面を見た制度となっている。

着工前に申請いただき、着工、操業してから1年後に交付としている。すぐに廃業した場合のリスクを避けている。

(委員)

聞く限りでは、他の機関と比較して割と使いやすい。

(事務局)

北海道の市町村連携型という補助金とほぼ要件が同じで、かつ併用できるため是非活用いただきたい。

(委員)

あまり外から起業を誘致する時代じゃないと感じている。ビジョンにおいても誘致企業という書き方は必要ないのでは。外から来る企業を排除するわけではないが、十勝で儲けるという視点の企業よりも、十勝に愛着を持って来る企業に来てほしい。

(委員)

例えば物流、コールドチェーンのような地域に無い、もしくは弱い企業を誘致する考えで見直しをしたらどうか。北海道のなかで何かの拠点になろうとした時に、十勝帯広に足りないものを補完するような誘致か、域内企業の大型化の方向で検討してはどうか。

(事務局)

弱点の業種に対してインセンティブを高めるというのは前々から議論されている。例えばジュースをペットボトルに充填する企業が地元であれば、新たな可能性が広がると感じている。そういうところが目の付け所かなと思う。

地域になんら関連性のない企業をつれてくるのではなく、フードバレーの関係で十勝の農畜産物を活用し付加価値を高めるような企業を誘致する活動は、市としてもやっていかなければならない。その点に絞って議論すれば、他地域よりも優位に立てるのではないか。

(委員)

地域という立場から、企業立地の考え方、域外域内の考え方など、今の議論を反映させた文章をビジョンに反映させ流必要があるのでは。

(事務局)

ビジョンの32ページでは、「市場」という表現を行っているが、域内と域外を結びつける考え方が記載されている。産業振興の考え方の視点の部分においても、「企業立地の促進」として、大きな視点から記載している。

■協議3 具体的な事業化に向けた検討について

資料に基づき事務局より説明

(事務局)

まずは波及効果が高いもの、次に実現性、最後に協働の可能性の順に優先度をつけ、評価が高い事業を絞り込んでいきたい。

事業の具体化に向けた手法について、まずはご意見をいただきたい。

ビジョンで具体的な事業を記載すると、ビジョンに縛られるという可能性があることから大きな視点から記載してあるが、この検討では具体的な部分を勧めていきたいと考えている。財政課との協議もあるため、選んだものが来年すぐ実現するとはお約束できないが、これが今まさに必要であるといったご意見をいただきたい。

(委員)

企業と行政等の協働の意味合いがよく分からない。必要か必要でないかの視点で十分ではないのか。

(事務局)

条例やビジョンでも意識しているが、行政と企業の協働の視点が必要と考えている。どちらか一方だけで進めるのではなく、両者で関わりを持って実施できるものを意識したい。

(委員)

まずは点数をつけ、その結果をもって改めて議論ということでもいいのでは。次回以降、具体的な事項をまとめていきたい。

Ⅲ. その他

(委員)

十勝川温泉において、現在雨宮館の再活用の話があるが、市も関わりながら連携する予定はあるか。市内との交通の便を良くするなど。

(事務局)

再活用の詳細は把握していない。現在ワークショップのような形で活用を議論しているものと思われる。市の観光としては十勝全体という視点で一緒に取り組んでいる。

十勝川温泉から帯広駅前のバスターミナルを経由して空港までのバス路線はある。

Ⅳ. 閉会

【次回開催】

日時：平成 26 年 10 月 21 日 (火) 17 : 00 より

場所：帯広市役所 10 回第 5A 会議室